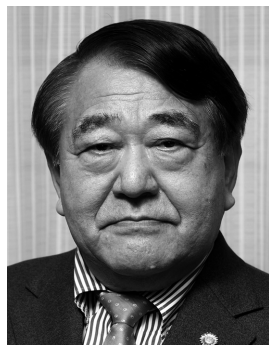


2023年の視座

—世界史の転換点に立って

（二財）日本総合研究所会長
寺島 実郎

- *弱体化すすむ核大国・ロシア
- *注目すべき台湾の経済ダイナミズム
- *重要性増す華僑華人の動向
- *「ユニオンジャックの矢」が意味するもの
- *ユダヤ・ネットワークを考える
- *アメリカの政治的分断の実像
- *国際世論形成とユダヤファクター
- *イスラエルという圧倒的な勝ち組
- *二極対立という視点が生む思考停止
- *退潮続く日本をどうするか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、毎年恒例で12月にお呼びしている寺島さんにおいでいただきました。改めてご紹介の必要もないかと思いますが、今年ももうすぐ終わりでございますので、12月は新年のお題ということで、いつも新しい年をどういうふうな視点で見たいのか、そういったことを経済社会、いろんな方面からお話をいただいております。

日本も世界も今大変な状況でございますが、そういう意味でわれわれがしっかり物を見ると、いつもその視座を、いつものようにお話をいただきたいと思っています。

それでは寺島さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

弱体化すすむ核大国・ロシア

寺島

1年に1回、定点観測のようにここに現れています。東洋経済の経済倶楽部は、名古屋の年に1回の会も含めて最もインテリジェントな人たちが聞いているということなので、私も非常に楽しみにしてやっています。2022年末ということですが、今年1年を振り返って、いったいどういう歴史的な転換点なのかということを考えながら今日やってきました。

まず、コロナの3年というのが過ぎようとしています。世界では670万人の人が亡くなったという局面に入ってきています。しかし、つい先月発表になったのは、世界人口がついに80億人を超したと。670万人もコロナで亡くな